

熊本県誕生
150年

戯曲『夕鶴』を生み、シエイクスピアを愛した男。



戯曲『夕鶴』衣装（山本安英着用）
夕鶴記念館蔵

2026年度 くまもと文学・歴史館 企画展

没後20年 木下順二展

2026年
10月9日(金) ≫ 12月6日(日)

●休館日／火曜日(11月3日は開館)、10月30日(金)、11月4日(水)、11月27日(金)

●開館時間／午前9時30分～午後5時15分

【主催】くまもと文学・歴史館、熊本県立図書館

【協力】伊豆市、伊豆市観光協会天城支部、白壁、玉名市立歴史博物館こころピア

To Be Dramatic

入館
無料



文学と歴史でたどる くまもとの記憶 / 10th
くまもと文学・歴史館
Kumamoto Museum of Literature and History



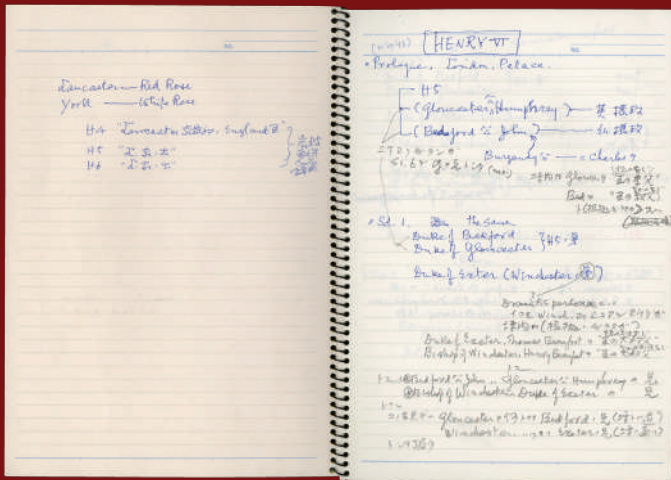
木下順二は東京本郷に生まれ、小学4年生から第五高等学校卒業までの多感な時期を熊本で過ごしました。熊本での暮らしや東京との言葉のちがひ、文化、歴史など、さまざまな経験がその後の木下の考え方や作品に影響を与えています。

東京帝国大学へ進学した木下は次第に劇作家を志すようになり、戦後、戯曲『風浪』をはじめとする多くの作品を精力的に発表しました。毎日演劇賞を受賞した『夕鶴』は1,000回を超えて上演され、今なお愛される国民的戯曲です。そのほか、ゾルゲ事件の尾崎秀実をモデルにした『オットー』と呼ばれる日本人、日本の戦争責任を追及した『神と人とのあいだ』などの社会劇、古典、平家物語の世界を鮮やかに描き出した『子午線の祀り』など、数多くの名作を生み出しています。また、言葉の問題やドラマ論を中心とする数々の評論を執筆し、晩年に至るまでシェイクスピア作品の翻訳を続けるなど、その文筆活動は多岐にわたりました。

今年は木下の没後20年の節目に当たります。この機会に本展では、生前に当館へ寄贈された貴重なノートや自筆原稿などを広くご紹介いたします。ぜひ会場で、木下順二の築いた劇的世界をご堪能ください。



『夕鶴』の原型となった初期作品
自筆原稿「鶴女房」(1943年) くまもと文学・歴史館蔵



『薔薇戦争』への道のりが綴られる
シェイクスピア翻訳時のノート(1996年頃) くまもと文学・歴史館蔵



中学の夏休みに取り組んだ宿題
手製の「伊倉町誌」(1929年)
玉名市立歴史博物館こころピア蔵

五高時代の木下順二(1935年)

記念講演会 「木下順二の劇世界」



いのうえ よしえ
井上 理恵

東京生れ。桐朋学園芸術短期大学名誉教授、日本演劇学会理事。『近代演劇の扉をあける』(社会評論社1999)で日本演劇学会河竹賞受賞。川上音二郎・有島武郎・久保栄・木下順二・福田善之・清水邦夫など近現代演劇の先駆的研究を発表。著・編著に『川上音二郎と貞奴』『久保栄の世界』『木下順二の世界』『清水邦夫の華麗なる劇世界』『ドラマ解説』『村山知義の演劇史』『島村抱月の世界』など多数。『井上理恵の演劇時評』を配信中。

- 日時: 11月7日(土) 午後1時30分から午後3時
- 会場: 熊本県立図書館3階 大研修室
- 定員: 100名(申し込み先着順)
- 参加無料
- お申し込み先: 096-384-5000(代表)
- 申込受付時間: 午前9時30分～午後5時
- お申し込み先URL: <https://logoform.jp/f/Yrj2A>

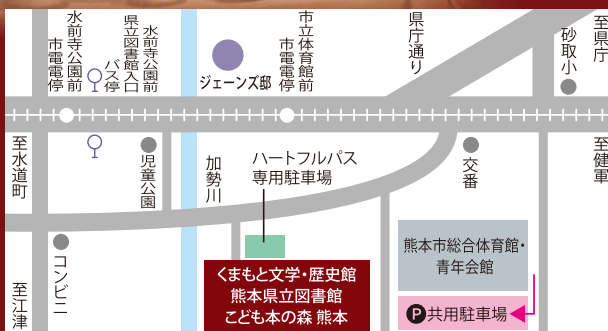
○お申し込み先二次元コード:



ギャラリートーク

- 10月25日(日)、11月21日(土) いずれも午後1時30分～午後2時
- 申込不要、参加無料
- くまもと文学・歴史館ロビーにお集まりください

次回企画展のテーマは、江戸時代の人吉藩・相良家です。お楽しみに！
2027年1月22日(金)～3月7日(日)



- JR熊本駅から路面電車(市電)で約40分(JR新水前寺駅から路面電車(市電)で約10分)「市立体育館前」下車徒歩約5分
- バス「水前寺公園前・県立図書館入口」下車徒歩約5分
- 駐車場: 熊本市総合体育館・青年会館駐車場(共用)
- ハートフルバスをお持ちの方は、図書館北側の専用駐車場をご利用ください。
- 駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



熊本市中央区出水2-5-1
TEL 096-384-5000(代表)
FAX 096-385-4214
<https://www.2.library.pref.kumamoto.jp/bunreki>

くまもと文学・歴史館

検索